

だんだん便り

発行：一般社団法人だんだん会

責任者：宮崎和加子

第79号

2024年5月10日



花園の小さな訪問者

田んぼの片隅に作られた花園には可愛い訪問者がせわしく
飛び回っていました。

小山 茂 (茅野市)

グループホームわいわい白州・摩利支天



季節も暖かい日が続く様になりました。外の空気が気持ちいいですね！



リビングではそれぞれの過ごし方が・・・。



<摩利支天 立花明子>

「リハ特化半日でいるんるん」

木々が芽吹きだし、あっという間に新緑のきれいな季節になりました。季節の移り変わりを感じ、自然を美しいと思えるのはきっと平和な日常を過ごせているからなのでしょうね。(どんどん伸びてくる雑草のことを考えると少し憂鬱ですが…)

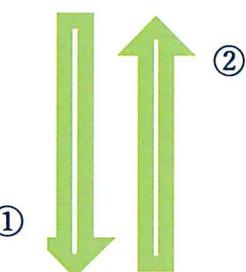
さて、今月はるんるんで準備体操や整理体操の時にしている、**脳トレ体操**をご紹介します。るんるんをご利用いただいている方には馴染み深いのではないでしょうか。

☆2拍子・3拍子☆

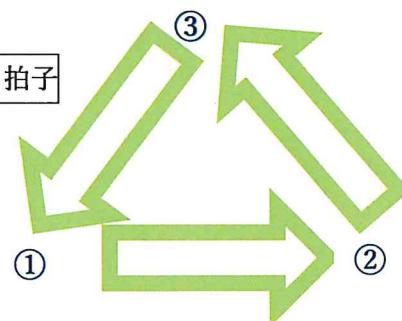
右手は2拍子・上下に動かし、左手は3拍子・三角に動かします。

「1, 2, 3, 1, 2, 3」と数えながら動かすと、2回目の「3」の時に左右の手が揃って上に上がっていれば成功です！左右を変えると途端に難しくなりますのでお試しください。

2拍子



3拍子



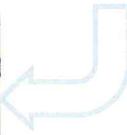
☆指折り☆

右手は指を1本折った状態で、10まで数えながら指を折ります。簡単なように見えて意外と難しいです。出来るようになったら、始めに指を折る手を逆にしたり、2本折ったり、少し変えて挑戦してみてくださいね。

始まり ⇒



終わり



わがままハウス山吹（支援付き共生すまい）

花も嵐も踏み越えて～～♪

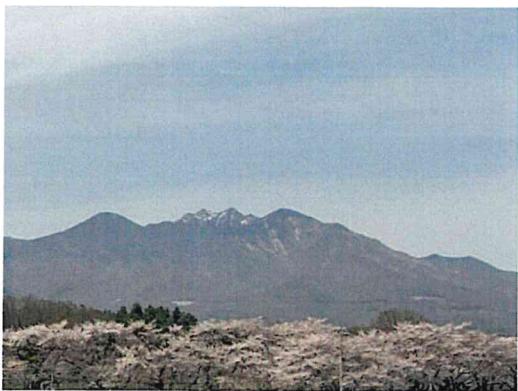
スタッフ 甲斐

かつて東日本大震災支援の時の事ですが、周辺が瓦礫の中に一本の満開の桜が屹然と立っていました。思わず息を呑み込み、それは何かの気を象徴するような場面でした。そして、東北出身のアーティスト達が『花は咲く』という復興支援ソングを歌い始めました。「花は花は花は咲く わたしは何を残しただろう」(岩井俊二)と。

春は巡り、桜や様々な花が咲き乱れる季節になりました。桜を追って、旧日野春小学校、神田の大糸桜、蕪の桜並木、長坂総合スポーツ公園、清春芸術村、小淵沢スパティオの神田大糸桜の子供であるしだれ桜、眞原の桜並木、そして我が山吹へと辿り着きました。

なんたって 102 歳の高山さん、弾けています。

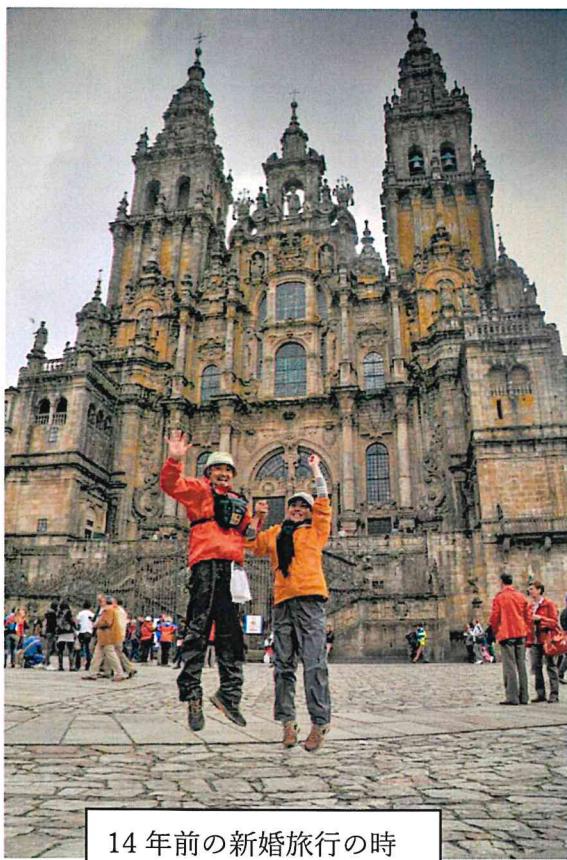




スペイン巡礼の旅 ~14年ぶり 家族で~

定期巡回てくてく 24 藤井久美子

長いお休みをいただき、職場の皆さんには沢山ご無理を聞いていただいたにも関わらず、笑顔で送り出していただきました。おかげで、この大冒険を経験でき、子供たちにとって多くの学びとなったことに心から感謝しています。



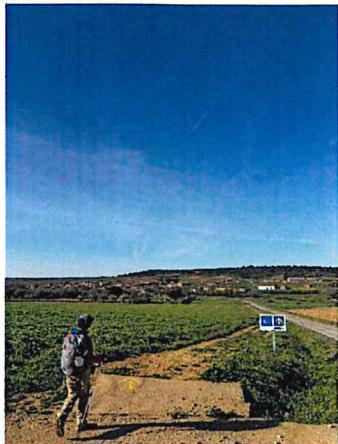
14年前の新婚旅行の時



今回、家族4人で

スペインのガリシア州にあるキリスト教の聖地、サンティアゴ・デ・コンポステーラへの家族4人での巡礼旅行は、14年前に私たち夫婦が新婚旅行で800km歩いた道を、今回は子供たちと共に歩むという夢の実現でした。出発当日、予期せぬハプニングが！長男が突然40度近い高熱を出しました。とにかく主人と次男を送り出し、長男の回復を待ってから私たちも後からスペインへ出発することになりました。

すでに主人と次男はレオンから巡礼の道を歩き始めました。私と長男は、成田空港からアブダビを経由してマドリード・バラバス空港まで約20時間の長旅の後、鉄道に乗り継いでようやく家族と合流しましたが、その途中でまたもや鉄道が故障するというハプニングが(泣)。しかし、長男の励ましもあり、私たちはどうにか無事に家族の元にたどり着くことができました。

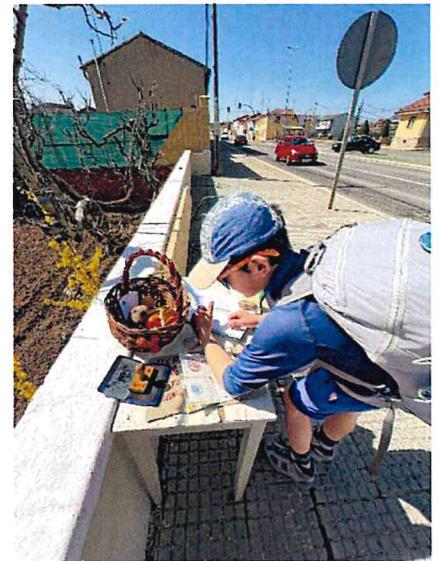


翌日から、私たちは家族全員で 100km の巡礼の道を歩き始めました。嵐のような悪天候に見舞われつつも、1 日目には 23km を歩きました。景色は牛舎が点在する牧歌的なもので、どこか清里の風景のようです。晴れていればさらに美しかっただろうと感じました。続く日々も、曇りと雨の中を歩き続け、全身筋肉痛になりながらも、美しい景色と地元の美味しいワインに励されました。

しかし、またハプニングが。次男が 38 度の熱を出しました。一晩しっかり休んだ後、熱は下がりましたが、腹痛が続いたため、一日は全く歩けず、ゆっくりと休養を取ることにしました。幸い、その後は体調が回復し、病院に行くことなく旅を続けることができました。

とうとう巡礼最終日。生憎の雨でしたが、大聖堂のあるサンティアゴの街並みが見えて来てワクワクします。次男はずっと不機嫌でしたが、私の後ろを離れたり近づいたりしながら頑張って歩きました。いよいよ、ゴールのサンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂に到着です！！

14 年前は主人と 2 人だったこの旅も、今回は子供たち 2 人が増えて家族 4 人でゴール！！100km はあっという間に終わってしまいましたが、大聖堂の前に 4 人並んだ時は言葉にならない思いが込み上げてきました。



介護報酬改定・・・

賃上げどころか…！

だんだん会 理事長 宮崎和加子

「定期巡回サービスや訪問介護の介護報酬が下がって、収入が減り、経営が大変でしょう」と時々言われます。全くその通りです！ 改定の影響の実際の数字がまだ出でていないので正確にはお伝え出来ないのですが、一般企業が賃上げ云々といっていますがどこ吹く風です。

どうして「定期巡回サービス」の基礎報酬を下げるのか

厚労省が引き下げの根拠としているのが、2023年度の介護事業経営実態調査の結果、定期巡回サービスの收支差率が11.0%と他と比べてダントツ高かったからだと。つまり、『定期巡回サービスは儲かっているので単価を下げる』というのです。

儲けられるところと儲けられないところ

全国調査では非常に储かっているところが少なくなかったということでしょうが、その実際はどうなのでしょうか。サービス付き高齢者向け住宅など集合住宅に入居している要介護者だけにサービスを行う定期巡回サービスが多いのです。利用者宅間の移動は0分から5分。私の言葉でいうと移動時間なしの『中だけサービス』。それに比べて地域全体の自宅に住む要介護者の生活を支える定期巡回サービスは、時には移動時間は勤務時間の半分、1日100kmも移動しながら支えます。効率が悪いのです。収益を出すのは困難なんです。(上記のことを一応配慮して、同一建物への訪問については減算するなどの対応はされていますが…)

そもそも「定期巡回サービス」の目標は？

厚労省がこのサービスの創設の時に示したのは、「重度者を始めとした要介護高齢者の在宅生活を支えるため、日中・夜間を通じて、訪問介護と訪問看護を一体的に密接に連携しながら対応を行う」という内容。それまでの週単位での支援だけでは不十分で一日複数回訪問支援することで、自宅で暮らし続けることを希望する要介護者を支え続けるというものです。

これでは、自宅での生活をあきらめ、高齢者住宅や介護施設などへ入所せざるをえない。そういうふうに報酬改定で誘導しているように見えます。そうではない選択肢として創設された制度なのですから『自宅』での生活継続のための施策の見直しが必要なのだと思います。

2024年4月の介護報酬改定は？

「報酬が上がったでしょう」といわれますが、「加算」を取らないとかえって収入が減ってしまう。かといって「加算」をとるには、資格などの要件が整わないなどなかなか厳しいです。処遇改善加算などの事務手続きも複雑で、小規模介護事業者にとってはたいへんで～す！ 大都市有利・大企業有利な制度設計に見えます。

“介護事業者倒産”“介護の現場に外国人介護者多数”など介護業界は大きく変化しそうです。人口減少地域はさらに要介護者・住民は家にいることが難しく、さらに介護事業者は事業継続が困難になるのでは…！！ 何だか変じゃないですか？

